

港湾整備事業

平成23年度		再評価										
事業名(箇所名)	複合一貫輸送ターミナル(改良)事業(舞鶴港 前島地区)			担当課	港湾局計画課					事業主体	国土交通省 近畿地方整備局	
実施箇所	京都府舞鶴市											
該当基準	事業採択後長期間(5年間)が経過した時点で継続中の事業											
主な事業の諸元	岸壁(改良)(水深9m)、航路・泊地(水深9m)、泊地(水深9m)等											
事業期間	事業採択	平成19年度	完了	平成27年度								
総事業費(億円)	48		残事業費(億円)	27								
目的・必要性	<p>&lt;解決すべき課題・背景&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>船舶の老朽化や日本海側の荒天時における航行の安全性の向上のため、先行して大型船を導入しており、水深が浅く喫水調整による非効率な運航を余儀なくされている。</li> <li>現行フェリーに必要な水深・岸壁延長を確保し、船舶荷役等の安全性の向上を図る必要がある。</li> </ul> <p>&lt;達成すべき目標&gt;</p> <p>複合一貫輸送コンテナターミナルを改良整備することにより、輸送の効率化を図り、合わせて荷役等の安全性を確保する。</p> <p>①貨物輸送の効率化 ②船舶係留時の安全性の向上</p> <p>&lt;政策体系上の位置付け&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>政策目標：国際競争力、観光交流、広域・地域間連携等の確保・強化</li> <li>施策目標：海上物流基盤の強化等総合的な物流体系整備の推進、みなとの振興、安定的な国際海上輸送の確保を推進する</li> </ul>											
便益の主な根拠	<p>輸送コスト削減 (平成20年代後半予想取扱貨物量：516万トン/年)</p> <p>移動コスト削減 (平成20年代後半予想旅客数：88千人/年)</p>											
事業全体の投資効率性	基準年度		平成23年度									
	B:総便益(億円)	68	C:総費用(億円)	45	全体B/C	1.5	B-C	23	EIRR(%)	6.3		
残事業の投資効率性	B:総便益(億円)	68	C:総費用(億円)	24	継続B/C	2.8						
感度分析			事業全体(B/C)				残事業(B/C)					
	需要(-10%~+10%)		1.4	~	1.7	2.5	~	3.1				
	建設費(+10%~-10%)		1.4	~	1.6	2.5	~	3.1				
	建設期間(+10%~-10%)		1.5	~	1.5	2.8	~	2.8				
事業の効果等	<p>当該事業を実施することにより、</p> <p>①船舶の大型化に対応し、円滑な船舶の出入港が可能となり、輸送コストの削減が図られる。</p> <p>&lt;貨幣換算が困難な効果等による評価&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運航の安全性向上</li> </ul>											
社会経済情勢等の変化	特になし。											
主な事業の進捗状況	総事業費48億円、既投資額21億円 平成23年度末現在 事業進捗率42%											
主な事業の進捗の見込み	事業が順調に進んだ場合には、平成20年代後半の完了を予定している。											
コスト縮減や代替案立案等の可能性	・航路・泊地から発生する石材の有効活用等による土捨て費用の削減											
対応方針	継続											
対応方針理由	充分な事業の投資効果及び進捗の目的が確認されたため。											
その他	<p>&lt;第三者委員会の意見・反映内容&gt;</p> <p>対応方針(原案)のとおり「事業継続」でよいと判断</p>											

# 舞鶴港 前島地区複合一貫輸送ターミナル(改良)事業

